

平成30年度 新潟県立歴史博物館 講座のご案内

(後期:2018年10月～2019年3月)

期日	曜	時間	講座名	講師	内容	対象	定員	会場	持ち物等	申込方法
10月14日	日	13:30～15:00	秋季企画展・記念講演会 三河武士の活躍と徳川氏 ー牧野氏の活躍を見るー	谷口 央 (首都大学東京都市 教養学部教授)	江戸時代に長岡藩主となった牧野氏は、三河以来の徳川家臣でした。徳川氏が天下を統一していく時期に牧野氏がどのような活動をしていたのか、その実態などについて、首都大学東京教授・谷口央先生に御講演いただきます。	一般	150	講堂	ー	電話、葉書、FAX、メール
10月20日	土	13:30～15:00	シリーズ「記念」連続講座④ 色部家の歴史と古文書	前嶋 敏	鎌倉時代以来越後を拠点に活動していた色部氏は、たくさんの古文書を現在に伝えました。色部氏が古文書を伝えた意図や歴史的な意義などについて考えます。	一般	50	研修室	ー	電話、葉書、FAX、メール
10月27日 11月3日 11月10日 11月24日	土	13:30～15:00	古文書講座 ～古文書解読のツボ～ -全4回-	田邊 幹	地域に残る様々な古文書を読み解き江戸時代の社会の様子に触れながら、古文書独特の漢字の使い方、言い回しなどを中心に、古文書のツボを抑え、古文書の読み解き方を紹介します。	一般	35	研修室	ー	電話、葉書、FAX、メール
11月17日	土	13:30～15:00	土器づくりの  始まったころ	橋詰 潤	土器は、日本では最古の例で約1万6千年前から、新潟県でも1万5千年前頃には使われはじめます。土器はどのような背景の下で使われはじめたのかについて、周辺地域や古環境などについて紹介しながら考えます。	一般	50	研修室	ー	電話、葉書、FAX、メール
12月1日 12月8日	土	13:30～15:00	古文書講座 ～江戸時代を探る～ -前編・後編-	渡部 浩二	江戸時代の越後の人々のくらしがわかるような古文書を教材とし、古文書解読とともに文書の社会的背景を解説します。なお、対象者は古文書中級者とします。	一般	35	研修室	ー	電話、葉書、FAX、メール
12月15日	土	13:30～15:00	古代の資料を読む②	浅井 勝利	古代(奈良平安時代)の歴史史料を読み解きながら、当時の社会や政治について考えます。(9月8日(土)、に実施の「古代の史料を読む①」とは、連続する内容ではありません。)	一般	50	研修室	ー	電話、葉書、FAX、メール
1月12日	土	13:30～15:00	 旅してきた石たち	橋詰 潤	金属がまだない旧石器時代や縄文時代には、石が重要な道具の素材でした。糸魚川市のヒスイも遠方まで運ばれ使われていました。一方で、県内に大規模な産地のない黒曜石は主に外から運ばれてくる石でした。このように、旅してきたり、旅していった石たちについてお話しします。	一般	50	研修室	ー	電話、葉書、FAX、メール
1月19日	土	13:30～15:00	冬季企画展・記念講演会 MALUI連携による 地域資料の共有化へ -デジタルアーカイブによって何ができるのか-	原田 健一 (新潟大学 人文社会学系附置 地域映像アーカイブ 研究センター長)	新潟大学人文社会科学系附置地域映像アーカイブ研究センターでは、地域に眠る映像を発掘・整理・保存し、デジタル化をするだけでなく、新たな文化資源に位置付ける作業を行ってきました。今後、MALUI(博物館・文書館・図書館・大学・産業界)連携を進めることによって文化資源が共有化され、どのように活用されていくのか。その展望と課題について紹介します。	一般	150	講堂	ー	電話、葉書、FAX、メール
1月26日 2月2日	土	13:30～15:00	古文書講座 ～越後文書宝翰集 を読み解く～-前編・後編-	前嶋 敏	新潟県立歴史博物館の所蔵する古文書群「越後文書宝翰集」は、中世の新潟県を知るうえでの最重要資料のひとつです。この文書群は全部で44巻722通あり、大きく18群に分類されますが、今年はそのうち胎内市を拠点に活動した三浦和田氏に関する古文書を解読しながら、当時の越後について考えます。	一般	35	研修室	ー	電話、葉書、FAX、メール

期日	曜	時間	講座名	講師	内容	対象	定員	会場	持ち物等	申込方法
2月9日	土	13:30～15:00	シリーズ「記念」連続講座⑤ あの世記念日 ～年忌供養と弔いあげ～	大楽 和正	人間は誕生以後、生後七日目の七夜、百日祝いのお食い初めにはじまり、七五三詣、成人式、厄年、年祝い(還暦・古稀ほか)など、人生の節目にさまざまな儀礼を行います。このような儀礼は死後にも行われ、四十九日の法要、百ヶ日、一周忌、三回忌と続き、弔いあげとなる三十三回忌や五十回忌の最終年忌まで行われます。本講座では、主に新潟県内の年忌供養と弔いあげをめぐる儀礼を紹介し、その特質について迫ります。	一般	50	研修室	—	電話、葉書、FAX、メール
2月16日	土	13:30～15:00	シリーズ「記念」連続講座⑥ オキノさんを探して	西田 泰民	明治2年、開港した新潟にオランダ領事館が設けられました。赴任したメース副領事には日本人女性との間に生まれた息子がいました。その女性の名前はオキノと伝えられ、写真が一枚残っていますが、出身地やその後について何もわかっておらず、子孫がその女性の手がかりを探しています。その探索の経緯と当時の日本人女性と外国人との関係を紹介します。	一般	50	研修室	—	電話、葉書、FAX、メール
2月23日	土	13:30～15:00	体験型講座 作ってみよう 「本格まが玉」(冬の部)	山本 哲也	一般に体験用として使う滑石(かっせき=硬度1)ではなく、やや硬い石材(硬度3)を使い、また、昔の製作技法も一部取り入れながら、ちょっとだけ本格的なまが玉作りを体験します。なお、「一般」は中学生以上で個人参加が可能、「親子」は「保護者と小学生以下の組み合わせ」で複数名での参加を原則とします。	親子優先 一般も可	30	研修室	材料費(300円)のみ必要	電話、葉書、FAX、メール
3月2日	土	13:30～15:00	体験型講座 縄をつくる・縄文をつくる	宮尾 亨	縄の燃り方によって変化する縄文土器の模様を実習します。	一般 親子	25	研修室	—	電話、葉書、FAX、メール
3月9日	土	13:30～15:00	体験型講座 火焰土器の鶏頭冠をつくる	宮尾 亨	火焰土器を特徴づける鶏頭冠突起を紙粘土で実際につくります。単なる模倣ではなく、出土品を観察して復元した縄文時代の人びとと同じつくりを実習し、このような造形の意味を考えます。	一般 親子	25	研修室	—	電話、葉書、FAX、メール
3月16日	土	13:30～15:00	シリーズ「記念」連続講座⑦ “思い出として残すもの” と民俗学	三国 信一	民俗学の主な調査方法は聞き取り調査であり、その記録を対象として研究をすすめることが一般的です。しかし、人の記憶には不得意な分野があり、たとえば日時や作業の回数などが記憶されていることはまれです。また、当時の形状や作業の実態を言葉のみで正確に知ることも容易ではありません。近年、このような民俗学の課題を解消する資料として注目されているものが、個人の日記や写真アルバムなどです。そこには聞き取り調査では把握できない情報が含まれていることも多く、また「どんなことが思い出として残されたか」という視点からの研究も始められています。まだ糸口についたばかりの個人的な記録を扱った民俗研究について考えます。	一般	50	研修室	—	電話、葉書、FAX、メール

<申込方法・手続き>

・申込方法は、「電話」「葉書」「ファックス」または「メール」での申込となります。いずれも、希望講座名、お名前、住所、電話番号の4項目を明記してください。

* 講師都合等による実施日の延期(中止)ということもあります。その際、申込者にはご連絡をいたしますが、お申込されていない方へはご連絡できませんので、ご注意ください。

※ 申込先

〒940-2035 新潟県長岡市関原町1丁目字権現堂2247番2 新潟県立歴史博物館 経営企画課
TEL:0258-47-6135 FAX:0258-47-6136 メール:koryu@nbz.or.jp

※ お申し込みいただいた際の個人情報、今後の講座や講演会・イベント等のご案内に使用させていただくことがあります。

携帯電話からの申し込みメールはこちらからのQRコードをご利用ください。

